

令和6年2月20日

世田谷区立下北沢小学校
校長 大字弘一郎様

下北沢小学校学校関係者評価委員会
臼井良雄・手寫きみ子・豊田慈子
佐野伸恵・清水桂子・中島栄二

令和5年度学校関係者評価委員会報告書

令和5年12月に実施され、回収された児童(5・6年 216名)、保護者(1～6年及びくるみ学級の保護者619名)、地域の方々(61名)、のアンケート回答に基づき、学校関係者評価をとりまとめましたので、以下のとおりご報告します。また下北沢小学校独自項目設問については、1～4年生及びくるみ学級にも実施され、回収されたデータも学校からいただき、分析に加え使用させていただきました。

本年度も、昨年のアンケートと同じ設問が設定されましたので、それぞれ前年度との比較をしながらの考察を行うことが出来ました。私たちの住むこの地域で子どもたちの成長を担う下北沢小学校の評価は、かなり高いことは感じていますが、評価が高いからこそ一層、児童たちが安心安全に充実した学校生活を送れますよう、今回のきめ細かいアンケートの結果を今後の学校運営にご活用くださいますようお願いいたします。

報告書は全体についての総合所見及び考察についてまとめた第Ⅰ部と、各アンケート項目ごとに、アンケート結果を数値化して昨年度の数値と比較、コメントした、付帯資料の第Ⅱ部により構成されています。

今回のアンケートは新校になって8回目、北沢小学校も一緒になり新設校舎へ移って6年目のアンケートであります。昨年に引き続き、本校が児童と保護者と地域の方々に高い信頼を受け運営されていることを強く感じる結果でした。校長を始め先生方への信頼感が厚い。学校経営方針なども良く伝わっている。学習指導や生活指導を前向きによくとらえています。そして、児童育成のため下北沢小学校が独自に設定している3点の重点目標も、肯定的回答が向上してきたと思えます。

回収率は学校資料によると、くるみ学級1～4年生100%、1～4年生97%、5・6年生96%、くるみ学級及び1～6年の保護者83%、地域の方々49%とのことです。
第Ⅱ部の付帯資料分析方法は下記のとおりです。

評価 A：とても思う + B：思う = 肯定的回答
C：あまり思わない + D：思わない = 否定的回答
E：分からない

として、肯定的回答が70%超えた場合は肯定的評価とし、さらにそれが80%以上になることを目標とする。回答%の比較表中には、比較のため、昨年のアンケート結果の数字も付記してあります。

第 I 部 総合所見及び考察

【1】学習指導について

先生方の学習指導への児童の受け取りは非常に肯定的である。昨年高い肯定的回答を示した5年生は6年生になった本年も教師への評価を更に高めている。

設問1の「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」に対し、今年の6年生は、93%という高い肯定的回答を示している。また本年の5年生も同じく92%の高い肯定的パーセントを示しており、「考える授業」という目標は順調に達成されつつあると思われる。保護者も85%が肯定的回答で否定的回答は6%と少ない。

設問2の「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」については、本年の5・6年生の肯定的回答が86%、87%と80%を大きく超えている。児童は先生方の工夫を高く評価していると言える。保護者は昨年69%、本年74%と昨年同様まだ肯定的回答が低く、子どもから情報を得ておらず分からないのではないか。

設問3の「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」については、児童の5・6年生の肯定的回答が92%、98%と高評価である。児童それぞれが発表が出来る分かりやすい授業が行われていることが伺える。この設問への「分からない」がほとんどゼロに近いのも評価できる。授業参観などでも当校ではグループ活動が授業の中で活発に行われていることが分かる。

設問4の「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」については、児童の肯定的回答がとても高い。5年生で89%、6年生で90%と児童が映像やタブレットを使った授業方法も分かりやすいと認識していることが分かる。児童たちが切磋琢磨する環境づくりに、先生方が尽力されているように感じた。児童は受け身ではなく授業を楽しんで積極的に参加しているようだ。昨年71%の肯定的回答が本年は79%に上昇している。

本校はITツールを活用しながら、相互に発表する場があるようだ。流石IT先進校と言われている下北沢小学校だと思う。

【2】生活指導について

設問1の「私は、学校のきまりを守って行動している」については、昨年に比べ5年生も6年生も肯定的回答がそれぞれ83%、89%と向上している。5年生も6年生もルールを守る行動に納得しているようだ。

設問2の「学校のきまりを守らない児童に先生は注意をしている」の設問については例年、児童も保護者も高い肯定的回答を示しているが、本年も5・6年生で83%、87%と高い。

設問3の「私は、先生に注意されたことは理解できる」については、注意されたことが理解できる5・6年生は89%、90%の肯定的回答を示し、理性ある児童が多いことが伺われる。否定的回答も昨年の13%が、5%に減少している。

学校に行く毎に感ずるが、本校はここ数年、自由な学校生活を児童に提供する方向へ進んでいるように見える。学校での児童たちを見ると笑顔が多く、楽しく授業をしているようだ。子どもたちをのびのび解放

し、なるべく規制干渉しないで、楽しく学べる学校にしたいという校長の考え方が、児童の成長に良い影響を与えているのではないか。また3年前から始まった教科担任制では児童が複数の担任に接することになり、いろいろな先生に接する機会が増えたこともよい結果の要因かもしれない。

【3】学校行事について

(1)の設問「学校行事は、楽しい」は昨年と比べ5・6年生とも肯定的回答が向上し90%、88%と高い。保護者の満足度も高い。学校側の学校行事への取り組みには力が入っており、教育の大事な場と考えていることが分かる。

(2)の設問「学校行事は達成感がある」の学校行事に対する児童の姿勢は、昨年度より満足度がアップし5・6年生とも84%、81%と80%を超える肯定的回答を示している。保護者も95%の肯定的回答でよくわかっているようだ。

(3)の設問「先生は、児童の意欲を大切にしている」は児童の意識を問う設問で、難しい設問だと思うが昨年より5・6年生とも肯定的回答が向上し、84%、83%と80%を超えた。児童は意欲が大事なことを理解し始めているようだ。

学校は運動会や展覧会、発表会などの各種行事を、教育上とても重視していると思う。行事では「おやじの会」「同窓会」などの協力を得てIT技術を駆使し、保護者の家庭や地方や海外に住む親族の方々にまでも行事での児童の活躍を配信し、多くの家庭、家族で行事を楽しむことが出来、大変喜ばれているようだ。学校と児童、保護者、家族との共感を高める場として見事に行事を運営していると思う。

【4】キャリア教育について

設問1の「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」これは小学生の児童に対しては、難しい質問なのだろうと感じていた。昨年度までは本設問に対しては、児童は60%前後の肯定的回答であった。しかし今年は5年生が74%、6年生が81%という高い肯定的回答を示した。一方保護者は昨年と同じ60%台の回答になっている。

設問2の「目標を持ち、その実現に向けて努力している」これも小学生には難しい設問だったと思う。昨年は5年生が80%の肯定的回答を示し驚いたけれども、今年は5年生が84%、6年生が88%という高い肯定的回答を示した。児童にこのような変化が何故起こったのか議論したが、世田谷区で始まった「未来キャリアデザイン教育」の効果が出ている。コロナが開けてきて子どもたちは外を見るようになり企業の方を呼んでの授業なども始まったからだなどの意見が出た。また家庭での子どもへの躾けなどの有無が児童の生き方やキャリア形成に大きな影響があるはずだという意見も出て、学校と家庭の連携によるキャリア教育が大事だという意見も出された。

設問3の「区立中学校に関する情報が提供されている」に関しては、例年と同じように肯定的回答が50%台で、児童の関心は高くないようだ。当校は中学受験を志望する児童も多く、「区立中学には行こうと

思えば行ける」と思って無関心な児童と、中高一貫教育の大学受験を意識した学校に行きたい子が混じりあっているのが実態だと思う。

小学校の段階で、自分が将来どんな人間になりたいか、そのためのキャリア教育を考えるのはかなり難しいのではないかと感じるが、学校がそういう取り組みをしているので、目標に自覚を持つ児童が4人中3人ぐらいの割合でいるのは素晴らしいことだと思う。しっかり目標を持ち始めているから、誰でも行ける区立中学への関心が薄いのかもしれないとも感じた。時代は小学生の高学年から競争社会の中に巻き込まれる時代になってきていると感じた。

しかし例えそのような時代でも本校で学び身につけた先生への信頼や友人たちとの接し方、目標への執念などの経験は大切な財産として残り、社会に出てからも大きな武器になると思う。

【5】教職員について

設問1での「先生たちは、ていねいに指導してくれる」に対し、本年の5・6年生は肯定的回答が91%、91%と90%を超えた。保護者の肯定的回答が平均で90%と満足度も高い。ただし否定的回答も学年に10%前後はいるようだ。

設問2での「先生たちに相談できる」については、前設問で「先生方の指導」に高い評価を示した児童たちが、本年もまだ5年生では78%、6年生で74%と肯定的回答が80%を割っている。実は昨年まではもっと肯定的回答は低く、一昨年まではさらに低く肯定的回答は例年60%台であった。しかし昨年は5年生が77%という今迄にない高い肯定的回答を示し、5・6年平均で肯定的回答を72%にまで引き上げた。本年、「先生たちに相談できない」という否定的回答を出した児童は5年生で20%、6年生で17%存在し、クラスで6人ほどの児童がそう感じているのは対応が必要だと思う。保護者の肯定的回答は80%と高く、満足しているようだ。

本校では「すまいるルーム」を導入、専門の先生が派遣され、配慮が必要な児童への対応が行われていて、お世話になっている保護者の評価は高い。スクールカウンセラーもいる。

私たちの感覚では、小学生の相談と言え、まず友達、次に保護者、その次に先生ではないだろうか？気軽に先生に相談できる児童は、先生や我々が思っているよりも少ないと思っていた。そんな中、90%以上の児童が「ていねいに指導」してくれると思い、70%以上の児童が「相談できる」と感じているのは上記のシステムもあつての肯定的回答なのかもしれない。カリキュラム作成や報告書類の作成に追われ、時間がない先生方の忙しさを新聞などでよく読む。しかし子どもたちが悩み、これは先生に相談しようと思つた児童との対話は、逃さないで欲しい。時間のない環境の中、先生は「相談を受ける」ではなく「耳を傾けてくれる」存在となり、ともすれば気にもかけない「手のかからない児童」にも「一言の言葉がけ」を心掛け、子どもの気持ちを気軽に聞ける存在でいて欲しい。

【6】学校全般について

設問1で80%以上の児童が「学校生活は楽しい」と思っている。1年生91%、2年生84%、3年生81%、4年生94%、5年生83%、6年生85%という本年の肯定的回答は、入学したては、特に楽しく、2年、3

年4年とまあまあ楽しく、5年生になると勉強が難しくなり少し悩むが、6年生ではまた回復するという児童たちの気持ちの動きが感じられる。児童はほぼ数人を除いて、学校生活は楽しいと思っている。

しかし設問2で「学校が好きであるか」と問われると、1～4年生平均の90%の高い肯定的回答に比べ、5・6年生の平均は77%と下がっている。高学年になると学習内容も高度化し、ついていけない児童も増え、委員会活動なども増え、プレッシャーが発生するからか、6年生では18%が否定的回答を示すようになってきている。

設問3での「私は家庭で宿題やeラーニングでの学習をしている」という設問に対しては、5・6年生の平均肯定的回答が昨年の64%から本年は74%とアップしている。教育分野へのIT技術の普及と児童の慣れは急速に広がっているようだ。子どもの適応力には素晴らしいものがある。

設問4「私は、塾で学習している」に対しては、本校では塾で学習している児童が本年は5年生で65%、6年生で72%肯定的回答を示している。驚きの数字だ。しかし20%から30%の児童は行っていないのも現実だ。

小学校から塾へ通ったり中学でも受験地獄があったりする環境が当たり前になり、小学校教育の難しさも感じる。学校に行くことが楽しいと思ってる児童、先生方とは良好な関係がありながらも、5・6年生になると「学校生活は楽しい」に対する否定的回答が約20%にもなる。高学年になると、批判的精神も目覚め、塾通いなどで余裕がとれず、ストレスも高まり、否定的回答が増加するのではないか。今の社会で、競争を否定することは出来ず、学校としてはそれに適応できない児童への精神的アシストまで心がけなくてはいけない時代と感じた。

「小中一貫の学び舎構想」については、区立の小学校と中学校を結び付けようとする行政側の試みは分かるが、今の時代の保護者や児童はそれを望んでいない人が半数を超えるのではないだろうか。小学校は人間としての基本的な知力、生き方、社会性などを学ぶ場で、中学、高校、大学は知識や能力を学び身に着ける場と考えている人が多くなっていると思う。その意味では中高一貫教育を選ぶ児童、保護者が多いのは理解できる。

【7】本年度下北沢小学校重点目標について

(1)重点目標「かかわり合う活動の充実による自分づくりのできる子どもの育成短くして『自分のよさの実感』」

5・6年生向け設問は、「わたしは学校生活のなかで、自分のよさを見つけられた」で、この肯定的回答を昨年以上にすることを目標にしている。

「自分の良さを見つける」事はなかなか難しいと思うが、本年は昨年より5年生も6年生も肯定的回答が平均で79%と昨年より10%近くアップしている。1～4年生の平均肯定的回答71%に対し、5・6年生のそれが10%近くも増えているのは目標設定による教育の継続効果だと思う。

(2)重点目標「学習内容がわかり、できると実感し、論理的に考え、表現する子どもの育成 短くして『できる・分かる』」

5・6年向け設問は、「わたしは学習において考えたことを友達や先生に伝えることができた」。なお、1～4年生には「学校では自分の考えを言うことができた」が設問されている。

1～4年生の肯定的回答の平均値が72%、それが5年生で76%、6年生で86%と伸びている。長年本目標を掲げ、教育してきた成果だと思う。

(3)重点目標「自分の身体づくりに関心を持ち、進んで運動する子どもの育成」

設問は「わたしは、健康に関心を持ち、進んで運動している」と児童の自覚意識を問う設問だ。

この目標も長年設定して一昨年までは肯定的回答が60%台で低迷してきたが、昨年、5・6年生の平均肯定的回答が75%と70%台となり、本年は5年生で80%、6年生で75%となり、だんだんではあるが上昇してきている。重点目標とした効果が上がってきていると考える。実際の運動現場では受験戦争の影響で、6年生の活動が減少するという事も起きているようだ。そんな中でも運動は必要だという意識を持っている児童が多くなっているのだろう。

本校が長い間設定してきた重点目標は本年にいたり、当初の目標、肯定的回答80%台がようやく見える段階になってきたと思われる。来年を期待する。

【8】特色ある教育活動について

設問1の「わたしは前より運動ができるようになった」についても本年は5年生79%、6年生が76%との肯定的回答を示し80%台にあと一步まで来た。当校の児童は「運動については自信がない」という回答が続いてきたが、もう一步であろう。

設問2の「自分の考えを言うことができた」については、5年生で肯定的が83%、6年生で90%と昨年よりもさらに向上している。1～4年生の平均が74%の肯定的回答であり、教育効果によるものと感じる。

設問3の「わたしは学校生活の中で、友達の話聞くことができる」についても、意識して行うことはとても難しいことだと思う。しかし他人の考えを傾聴するという能力は、社会生活においてとても重要なことだ。本年の5・6年生が平均して91%の肯定的回答を示したのは素晴らしい。保護者も肯定的回答が80%を超え、よくわかっているようだ。「他人の考えを聞く」ということは意外と難しいもの。本校の児童は友人には「自分の意見も言えるし、相手の意見も聞くことができる」という良好な関係性を作りあげているようだ。児童は自分を肯定的に見て自信をつけてきたので、他人の意見にも耳を傾けられるようになったのではないか。成長を感じる。

設問4と5の本校独自の「なかよし班活動」は、5・6年生がお兄さん役になり1～4年生と運動したり遊んだりする活動だが、素晴らしい教育効果を発揮しているものと感じる。例年5・6年生には「なかよし班活動では、下学年を楽しませている」、「なかよし班活動では、自分の役割に責任をもって活動している」

と聞いており、1～4年生には「なかよし班の活動は楽しい」「なかよし班でみんなで協力することができた」かを聞いている。

高学年児童の「楽しませている」という自覚及び責任感を感じつつ参加していることへの肯定的回答は、5年生は本年は83%、6年生が93%と上級生になると高くなる傾向である。仲良し班活動で下級生の面倒を見ることが、5・6年生の教育効果に繋がっていることが分かる。1～4年生は「なかよし班の活動」を楽しみにしていることもはっきり数字で出ている。楽しいと答えた1～4年生の平均は本年では92%に達している。当校の「なかよし班活動」は、1～4年生の90%以上が楽しみにしており、5・6年生が頼もしくも優しいお兄さん、お姉さんたちになっていることが分かる。そして上級生は5・6年生としての責任感を高めて行っている。先日行われた天狗祭りでの道行きでも、道路を練り歩くお兄さんたちへ、盛んに声をかける子どもの姿が多く見られたという。なかよし班活動でのつながりの結果だという。少子化時代の今、これは素晴らしい人間教育だと思う。

【9】学校と家庭のつながりについて

ここでは「挨拶の励行」と「朝ご飯」について問われている。

「わたしは知っている人にはあいさつしている」という設問については、5年生と6年生での肯定的回答が90%を超す。「あいさつ運動」は当校の目標、四つの柱のひとつであり、長年続けてきて効果を発揮している。アンケートでも評価が高く、地域でも登校時の見守りの方にも挨拶をしていく児童を多く見る。このような習慣を、学校でも長年取り組んでいることには頭が下がる。1～4年生の肯定的回答も85%を示している。

「わたしは朝ご飯を食べてきている」という設問について。朝ご飯を食べてこないという児童は数値的にはクラスでも数人いるようだが、彼らの保護者はそれに気付いていないのではないかと。共稼ぎ家庭が多い影響かもしれない。

【10】学校運営について

ここでは保護者と地域の方々へ、「学校の重点目標が提供されているか」、そして「校長や教職員の教育活動に満足しているか」を聞いている。結果は、保護者も地域の方々も、学校の重点目標をよく認識している。

校長はじめ教職員への評価は高く、地域の方では分からないという答えが15%前後あるが否定的回答はほとんどない。当校は学校だよりを毎月地域や保護者に配信しており、そこには巻頭にかかわらず学校が伝えたいことが校長や副校長のメッセージとして載っている。最近ではそれもIT化され、紙ベースではなく「すぐーる」という携帯アプリで読む人が多く、学校の事情がよく分かる結果につながっているようだ。

【11】学校からの情報提供について

学校からの保護者、地域への情報提供は、お知らせ、メール、ホームページ等の活用でよくなされている。ただし『学び舎』の区立幼稚園や中学校については、情報は来ているが関心が低いようだ。

【12】地域との連携について

地域への情報提供は手紙、メール、学校公開、行事への参加などで行われ、学校と地域の関係は良い。地域の人材などもPTAと協力して学校に協力している。おやじの会、同窓会などの地域の学校関係組織との関係が密接で、お互いに助け合っている。学校は会議室や体育館や校庭もスポーツ活動やイベントに提供するなど地域に便宜を図っている。ただ、学校で選ばれた地域の方々によって運営されている「学校運営委員会」等の活動についての認知度は関係者以外の地域や保護者では低い。

【13】学校の安全性について

保護者も地域も学校の「安全に対する意識と具体的施策」を認知し、安心して子どもを通わせられる学校と信頼していることが分かる。肯定的回答が保護者で84%、地域の方で97%ある。

【14】学校全般について

回答した地域の方々の児童や学校に対する評価は温かい。

保護者は「子どもが学校で楽しい思いをしている」ことに満足している。本年の肯定的回答は91%と特に高い。本小学校が地域の中で大きな存在になっていることが分かる。保護者の方々は本校が子どもにとって楽しいことを認め、高く評価しつつ、教育活動の内容の如何を聞かれれば、教育活動の一層の充実を望む保護者がいることが分かる。そして一方子どもの一層の体力向上も学校に期待しているようだ。

第Ⅱ部 設問別 詳細分析と考察

【1】学習(学習指導)について

(1) 5・6年生に「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」。保護者には「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	92	93	92	86	92	90	85	80
C+D	6	6	8	11	6	10	6	8

コメント：昨年5年生で非常に高い肯定的回答を示した今年の6年生は、昨年同様高い肯定的回答を示している。また本年の5年生も同じく高い肯定的パーセントを示しており、「考える授業」という目標は順調に達成されつつあると思われる保護者も80%が肯定的で否定的回答は少ない。

(2) 5・6年生に「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」。

保護者には「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	86	87	92	79	87	83	74	69
C+D	6	9	8	16	8	14	11	13

コメント：本年の5・6年生の肯定的回答が80%大きく超え、児童は先生方の工夫を高く評価していると言える。保護者は昨年と同様で肯定的回答が低く、子どもから情報を得ておらず分からないのではないかと。

(3) 5・6年生に「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」。

保護者には「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	92	98	96	88	95	92	86	80
C+D	6	1	4	9	3	6	5	9

コメント：5・6年生とも肯定的回答が90%台の高評価である。そしてこの設問への「分からない」がほとんどゼロに近いのも凄い。学校公開などでも当校ではグループ活動が授業の中で活発に行われていることが分かる。意見交換の場が自分の能力アップのチャンスとして児童は捉えているようだ。

(4) 5・6年生に「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」。

保護者には「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	89	90	86	81	90	84	79	71
C+D	7	7	13	19	7	14	9	16

コメント：児童の肯定的回答がとても高い。90%前後の児童が映像やタブレットを使った授業についていき、分かりやすいと認識している保護者の一部は、タブレットを勉強以外に家で利用しがちな子どもにも不安があるとも聞く。

【学習(学習指導)について考察】は「第一部2ページ【1】(学習指導)について」をご覧ください。

【2】生活指導について

(1) 5・6年生に「私は、学校のきまりを守って行動している」。

保護者には「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	83	89	82	68	87	75	79	74
C+D	11	8	13	27	9	20	10	13

コメント：昨年に比べ5年生も6年生も肯定的回答が向上している。5年生も6年生もルールを守る行動に納得しているようだ。

(2) 5・6年生に「学校のきまりを守らない児童に先生は注意をしている」。

保護者には「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均		令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	83	87	90	79	85	84		85	82
C+D	12	10	7	19	11	13		10	12

コメント：5・6年生とも肯定的回答が高い。保護者の評価も高い。

(3) 5・6年生に「私は、先生に注意されたことは理解できる」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均
A+B	89	90	88	82	89	85
C+D	5	5	12	15	5	13

コメント：注意されたことが理解できる5・6年生は90%前後の肯定的回答を示し、理性ある児童が多いことがうかがわれる。否定的回答も昨年より減少している。保護者も満足しているようだ。

【生活指導について】の考察は「第一部2ページ【2】「生活指導について」をご覧ください。

【3】学校行事について

(1) 5・6年生に「学校行事は、楽しい」。昨年は「わたしは楽しみにしている学校行事がある」。

保護者には「学校行事は、子どもにとって楽しい」。

昨年は「子どもたちは、学校行事を楽しみにしている」。設問が類似なので昨年と比較をする。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	90	88	86	80	89	83	98	95
C+D	9	8	14	18	8	16	1	4

コメント：昨年に比べ5・6年生とも肯定的回答が向上し90%に近い。保護者の満足度も高い。学校側の学校行事への取り組みには力が入っており、教育の大事な場と考えていることが分かる。

(2) 5・6年生に「学校行事は、達成感がある」。

保護者には「学校行事は、子どもにとって達成感がある」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	84	81	82	77	83	80	95	95
C+D	12	16	16	20	11	18	4	3

コメント：学校行事については昨年度より満足度がアップし5・6年生とも80%を超える肯定的回答を示している。保護者も95%の肯定的回答でよくわかっているようだ。

(3) 5・6年生に「先生は、児童の意欲を大切にしている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	84	83	81	72	84	76	91	87
C+D	9	11	13	20	10	16	4	5

コメント：昨年より5・6年生とも肯定的回答が向上し、80%を超えた児童が意欲が大事なことを理解し始めているようだ。

【学校行事(運動会、展覧会、学習発表会、宿泊行事など)について】の考察は「第一部3ページ【3】「学校行事について」をご覧ください。

【4】キャリア教育について

(1) 5・6年生に「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」。

保護者には「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	74	81	57	65	78	61	63	68
C+D	18	16	31	28	17	30	15	16

コメント：昨年度までは本設問に対しては、児童は60%程度の肯定的回答であった。難しい設問であると思うから、仕方がない結果だと考えていた。しかし今年は5年生が74%6年生が81%という肯定的回答を示した。一方保護者は昨年と同じ回答になっている。児童にこのような変化が何故起こったのか、知りたいと思った。

(2) 5・6年生に「目標をもち、その実現に向けて努力している」。

保護者には「自分の生き方や将来のことについて、考える授業をしている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	84	88	80	75	87	77	49	47
C+D	7	8	14	18	8	16	21	26

コメント：本設問も例年児童には難しかった設問で肯定的回答がなかなか80%台に乗らなかった。昨年は5年生が80%の肯定的回答示し驚いたけれども、本年は5年生が84%6年生が88パーセントという高い肯定的回答示した。何があったのでしょうか。

(3) 5・6年生に「区立中学校に関する情報が提供されている」

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和4年 児童5,6年 平均
A+B	55	53	54	37	56	47
C+D	21	26	24	31	21	26

コメント：北沢中学との交流はコロナ禍以降はほとんどなかったようだ。当校は私立中学を志望する児童も多く、児童の関心は高くないようだ。「区立中学には行こうと思えば行ける」と思い、関心を持たない児童が多いのではないか。

【キャリア教育についての考察】は「第一部3ページ【3】「キャリア教育について」をご覧ください。

【5】教職員について

(1) 5・6年生に「先生たちは、ていねいに指導してくれる」。

保護者には「本校は、ていねいに指導している」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	91	91	91	90	85	87	90	84
C+D	6	7	6	6	12	9	6	9

コメント：本年の5、6年生児童は肯定的回答が90%を超えた。保護者の満足度も高い。ただし否定的回答も学年に3人はいるようだ。

(2) 5・6年生に「先生たちに相談できる」。保護者には「本校は、子どものことを相談しやすい」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	78	74	76	77	66	72	80	77
C+D	17	20	19	19	28	24	14	17

コメント：前設問で「先生方の指導」に高い評価を示した児童たちが、5年生では78%6年生で74%と肯定的回答が80%を割っている。何があるのだろうか？先生方は忙しくて余裕がないのか？

【教職員について考察】は「第一部4ページ【5】「教職員について」をご覧ください。

【6】学校全般について

(1) 5・6年へ「学校生活は楽しい」。1～4年生には「毎日の学校生活が楽しい」。

上段に本年の結果、下段に昨年の結果を表にした。

回答%	令和5年 児童1年	令和5年 児童2年	令和5年 児童3年	令和5年 児童4年	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和5年 児童1～4 年全体	令和5年 5,6年 全体
A+B	91	84	81	94	83	85	88	84
C+D	4	12	15	4	14	11	9	12

回答%	令和4年 児童1年	令和4年 児童2年	令和4年 児童3年	令和4年 児童4年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和4年 児童1～4 年 全体	令和4年 5,6年 全体
A+B	86	87	93	76	80	77	86	78
C+D	9	11	6	21	19	21	12	20

コメント：80%以上の児童が学校生活は楽しいと思っている入学したては、特に楽しく、2年3年4年とまあまあ楽しく、5年生になると勉強が難しくなり少し悩むが、6年生ではまた回復するという児童たちの気持ちの動きが感じられる。

(2) 5・6年生へは「学校が好き」。1～4年生には「下北沢小学校が好きである」。

上段本年の結果、下段に昨年の結果を表にした。

回答%	令和5年 児童1年	令和5年 児童2年	令和5年 児童3年	令和5年 児童4年	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和5年 児童1～4 年全体	令和5年 5,6年 全体
A+B	91	90	85	95	76	77	90	77
C+D	4	7	9	4	17	18	6	12

回答%	令和4年 児童1年	令和4年 児童2年	令和4年 児童3年	令和4年 児童4年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和4年 児童1～4 年 全体	令和4年 5,6年 全体
A+B	86	87	93	76	71	66	87	69
C+D	9	11	6	21	28	31	9	30

コメント：当校の児童は「学校が好き」への肯定的回答が非常に高い。5・6年生になると授業も難しくなりやや下がり 20%弱の子どもは否定的回答を示すようになっている。

(3) 5・6年生にのみ「私は家庭で宿題やeラーニングでの学習をしている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和4年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均
A+B	77	59	72	88	74	64
C+D	15	25	21	22	18	24

コメント：eラーニングの学習は昨年よりも肯定的回答が20%近くアップしている。教育分野へのIT技術の普及はどんどん広がっている。子どもの適応力には素晴らしいものがある。

(4) 5・6年生へは「私は、塾で学習している」

回答%	令和5年 児童5年	令和4年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童6年	令和5年 5,6年 平均	令和4年 5,6年 平均
A+B	65	65	72	64	70	64
C+D	32	31	21	34	28	32

コメント：当校では塾で学習している5・6年生が50%から70%存在している。驚きの数字だ。しかし20から30%の児童は行っていないのも現実。児童の中にある種の分断を引き起こす恐れはないか？塾に行けない児童へのフォローも大切ではないか。

(5) 5年と6年へのみ「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」。

回答%	令和5年 児童5年	令和4年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均
A+B	22	26	36	22	30	24
C+D	29	43	48	62	40	53

コメント：例年本設問には否定的回答が多く、肯定的回答を上回っている。今年もコロナ禍の影響もあり、こういう機会も少なかったようだ。大きな問題として小中一貫の理念は分かるが、現実その対象者は児童の半分くらいの時代になり、逆に中高一貫教育の受験校に行く生徒が増えてきており、現実的に区立中学へ進学していく児童へのフォローの方が大切になると思う。

【学校全般のことについて考察】は「第一部4ページ【6】「学校全般について」をご覧ください。

【7】重点目標について

これについては5・6年対象の「重点目標について」の3問以外に1～4年生までを対象に「学校で大切にしていることについて」の中でも同様の内容を聞いているので同時比較をする。

(1)重点目標「かかわり合う活動の充実による自分づくりのできる子どもの育成 短くして『自分のよさの実感』」

この達成度メジャーとして、学校は、5, 6年向け設問「わたしは学校生活のなかで、自分のよさを見つけられた」の肯定的回答を昨年以上にすることを目標にしている。なお1～4年生には、「学校生活で自分のよいところをみつけられた」が設問されている。

回答%	令和5年 児童5年	令和4年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均
A+B	77	73	81	67	71	71	79	70
C+D	12	16	11	23	18	20	11	20

コメント：「自分の良さを見つける」のはなかなか難しいと思うが、本年は昨年より5年生も6年生も肯定的回答が平均で80%弱とアップしている。1～4年生の平均11%よりも10%も増えているのは教育の効果だと思う

(2)重点目標「学習内容がわかり、できると実感し、論理的に考え、表現する子どもの育成。短くして『できる・分かる』」

5・6年生には「わたしは学習において考えたことを友達や先生に伝えることができた」。なお1～4年生には「学校では自分の考えを言うことができた」が設問されている。

回答%	令和5年 児童5年	令和4年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均
A+B	76	74	86	74	72	74	82	74
C+D	17	23	10	24	23	24	13	24

コメント：1～4年生の肯定的回答の平均値が72%、それが5年生で76%、6年生で86%と伸びている。長年本目標を掲げ、教育してきた成果だと思う。

(3)重点目標「自分の身体づくりに関心を持ち、進んで運動する子どもの育成」

5・6年生には「わたしは、健康に関心を持ち、進んで運動している」。この達成度メジャーとして今年、学校は肯定的回答の昨年以上を目標としている。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均
A+B	80	75	79	72	77	75
C+D	17	22	19	24	20	23

コメント：この目標も長年設定して一昨年までは肯定的回答が60%台で低迷してきたが、昨年肯定的回答が70%台となり、本年は5年生で80%、6年生で75%となりだんだん上昇してきている。重点目標とした効果が上がってきていると考える。

【重点目標考察】は第一部、5ページ【7】本年度下北沢小学校重点目標についてをご覧ください。

【8】特色ある教育活動について

(1)5、6年には「わたしは前より運動ができるようになった」。

保護者には「子どもは今までより運動ができるようになった」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童5,6年 平均	令和4年 児童5,6年 平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	79	76	78	71	77	74	52	44
C+D	15	19	19	25	17	22	43	49

コメント：本年は5年生が79%の肯定的回答を示し80%台にあと一歩まで来た。当校の児童は運動については自信がない回答が過去続いてきたがもう一歩であろう。

(2)5・6年生には「わたしは学校生活の中で、友達に自分の考えを伝えることができる」。

1～4年生には「学校では自分の考えを言うことができた」。

保護者には「子どもは学校生活の中で友達に自分の考えを伝えているようである」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童1- 4年平均	令和4年 児童1- 4年平均	令和5年 児童5-6 年平均	令和4年 児童5-6 年平均	令和5年 保護者 全体	令和4年 保護者 全体
A+B	83	90	82	80	72	74	87	81	75	73
C+D	13	7	17	15	23	24	10	16	16	19

コメント：5年生で肯定的が83%、6年生で90%と昨年よりもさらに向上している。1～4年生の平均が74%の肯定的回答であり、教育効果によるものと感じる。

(3) 5・6年生には「わたしは学校生活の中で、友達の話を知ることができる」。

1～4年生には「学校では友達の考えをよく知ることができた」。

保護者には「子どもが学校生活の中で、友達の考えを知っているようである」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均	令和5年 保護者	令和4年 保護者
A+B	91	91	97	90		86	94	94	84	82
C+D	6	6	2	7		8	3	4	8	8

コメント：傾聴。他人の考えを知るといふことは、社会生活において重要なことだと思います。本年の5・6年生が91%の肯定的回答を示したのは素晴らしい。保護者も肯定的回答が80%を超え、よくわかっているようだ。

(4) 5・6年生には「なかよし班活動では、下学年を楽しませている」。

1～4年生には「なかよし班の活動は楽しい」。

保護者には「子どもはなかよし班活動遊びを楽しみにしているようである」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均	令和5年 保護者	令和4年 保護者
A+B	71	89	70	82	92	86	81	76	77	79
C+D	12	7	18	10	7	8	9	14	12	13

コメント：例年、肯定的回答は5年生はやや低く、6年生になると高くなる傾向です。仲よし班活動で下級生の面倒を見ることが、5・6年生の教育効果に繋がっていることが分かります。1～4年生は「なかよし班の活動」を楽しみにしていることが分かります。

(5) 5・6年生には「なかよし班活動では、自分の役割に責任をもって活動している」。

1～4年生には「なかよし班でみんなで協力することができた」。

保護者には「子どもはなかよし班活動において、自分の役割に責任をもって活動しているようである」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均	令和5年 保護者	令和4年 保護者
A+B	83	93	81	85	87	89	89	83	63	62
C+D	10	2	11	10	8	7	5	11	11	13

コメント：肯定的回答が5年生で83%、6年生で93%と、年代が上がるごとに責任感を感じつつ活動していることが分かる。

「特色ある教育活動について」考察は、第一部5ページ【8】「特色ある教育活動」について
をご覧ください。

【9】学校と家庭のつながりについて

(1) 5・6年生には「わたしは知っている人にはあいさつしている」。

1～4年生には「知っている人にはあいさつをしている」。

保護者には「子どもは家庭の中であいさつしている」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均	令和5年 保護者	令和4年 保護者
A+B	94	92	87	92	85	86	93	89	88	92
C+D	5	4	11	8	11	10	5	9	12	8

コメント：5年生と6年生での肯定的回答が90%を超す。「あいさつ運動」は当校の目標、四つの柱のひとつであり、長年続けてきて効果を発揮している。このような習慣を家庭以外で、学校でも長年取り組んでいることには頭が下がる。1～4年生も肯定的回答が85%ある。

(2) 児童に「わたしは朝ご飯を食べてきている」。

保護者には「子どもは朝ご飯を食べて登校している」。

回答%	令和5年 児童5年	令和5年 児童6年	令和4年 児童5年	令和4年 児童6年	令和5年 児童 1～4年 平均	令和4年 児童 1～4年 平均	令和5年 児童 5,6年 平均	令和4年 児童 5,6年 平均	令和5年 保護者	令和4年 保護者
A+B	91	90	89	79	97	93	91	84	97	96
C+D	9	9	9	20	3	6	9	15	3	4

コメント：昨年に比べても肯定的回答が向上している。

【10】学校運営について

(1) 保護者には「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」。

地域の方には「学校の重点目標が明確である」。

回答	1～6 年保護者		地域の方	
	令和 5 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	78	75	97	94
否定的回答%(C+D)	10	12	0	3
分からない%(E)	12	13	3	3

コメント：保護者や地域の方々の重点目標認知は年々アップしてきている。

(2)保護者には「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」。

地域の方には「地域の意見に対して、学校はていねいに説明対応している」。

回答	1～6 年保護者		地域の方	
	令和 5 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	90	88	77	83
否定的回答%(C+D)	2	4	7	3
分からない%(E)	8	8	16	14

コメント：保護者の本設問への否定的回答は少なく高い肯定的回答が示されている。

地域の方々には「分からない」と答えた方は多いが否定的回答は少ない。

「学校運営について」の考察は、第一部 6 ページ【10】「学校運営について」についてをご覧ください。

【11】 学校からの情報提供について

(1)保護者には「本校は、さまざまな便りなどで、保護者に情報を提供している」。

地域は「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる」。

回答	1～6 年保護者		地域の方	
	令和 5 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	92	94	97	94
否定的回答%(C+D)	6	6	3	6
分からない%(E)	2	0	0	0

コメント：学校からの情報提供については保護者、回答した地域の方々の肯定的回答が 90%台で高い評価である。

(2)保護者には「『学び舎』の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」。

地域の方には「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよく分かる」。で昨年設問と同じ。

回答	1～6年保護者		地域の方	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	46	40	83	78
否定的回答%(C+D)	30	37	7	11
分からない%(E)	24	23	10	11

コメント：『学び舎』の情報は学校が配布する資料には載せられているが、本設問への肯定的回答は保護者では低い。保護者の方は『学び舎』にはあまり関心がないようだ。

回答した地域の方々、学校公開や道徳授業地区公開講座などには関心があることが、その否定的回答の低さからうかがわれる。

(3)保護者には「学校公開や保護者会をとおして、学校の様子がよく分かる」。と昨年と同じ。

地域の方には「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」。と昨年とは異なる設問をしている。

回答	1～6年保護者		地域の方	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	93	90	83	78
否定的回答%(C+D)	5	9	3	11
分からない%(E)	2	1	14	11

コメント：保護者の肯定的回答が93%と高い。学校公開には大勢の保護者や関係者が来ている。地域には定期的に学校だよりが来ており、なり情報は分かるようだ。

(4)保護者には「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」。

地域の方には「学び舎の活動について、情報が提供されている」。

回答	1～6年保護者		地域の方	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	91	91	73	72
否定的回答%(C+D)	5	7	10	25
分からない%(E)	4	2	17	3

コメント：保護者にはITを使った情報が届いていることが分かる高い肯定的回答である。修学旅行など親元を離れる行事でも、子どもたちの様子が速報形式でHPにアップされ有り難かったという意見が

出た。流石 IT 先進校と言われる下北沢小学校だが受け取る保護者の IT 受容性も高い。回答された地域の方々は高齢の方も多く、その割には高い肯定的回答ではないだろうか。

【12】地域との連携について

(1)保護者には「本校は、地域の人材や施設を教育活動にいかしている」。

地域の方には「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」。いずれも昨年とほぼ同じ設問。

回答	1～6 年保護者		地域の方	
	令和 5 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	68	64	70	78
否定的回答%(C+D)	10	16	23	6
分からない%(E)	22	20	7	16

コメント：分からないという人が保護者で 23%ぐらいるのは分かる。地域の方で、「地域の人材の活用」を 70%ぐらいの人が認知しているということは評価できる。

(2)保護者には「本校は、地域の活動や行事に協力的である」。地域の方には「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」。いずれも今年新しい設問である。

回答	1～6 年保護者		地域の方	
	令和 5 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	66	58	33	42
否定的回答%(C+D)	8	14	27	22
分からない%(E)	26	28	40	36

コメント：分からないという回答が多い。保護者での肯定的回答が否定的回答の 8 倍もあるのは評価できる。地方の方はまだ関心が薄そうである。

(3)保護者の方のみに「本校は地域に情報を提供している」。

回答	1～6 年保護者	1～6 年保護者
	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	56	50
否定的回答%(C+D)	9	14

コメント：「分からない」が多い。知っている人の肯定的回答は否定的回答の約 6 倍で情報提供は良くなってきているようだ。

(4)地域の方に「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」。

回答	地域の方	
	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	43	50
否定的回答%(C+D)	20	8
分からない%(E)	37	42

コメント：地域では知らない人が多い。

【13】学校の安全性について

(1)保護者には「本校は、安全な学校づくりを進めている」。

地域の方には「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」。

回答	保護者		地域の方	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	84	84	97	97
否定的回答%(C+D)	10	6	3	0
分からない%(E)	6	10	0	3

コメント：学校の安全性については地域・保護者とも、それぞれ97%、84%の高い肯定的回答を示している。

(2)保護者には「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」。地域の方には「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」。

回答	保護者		地域の方	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	95	94	90	94
否定的回答%(C+D)	2	2	7	0
分からない%(E)	3	4	3	6

コメント：保護者も地域も肯定的回答が高く、評価されている。

「学校の安全性について」の考察は、第一部7ページ【12】「学校の安全性」についてをご覧ください。

【14】 学校全般について 【設問票番号 保護者 6-(1)～6-(5) 地域 1-(1)～2-(2)】

(1)保護者へのみ「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」。

回答	1～6 年保護者	
	令和 5 年	令和 4 年
肯定的回答%(A+B)	91	88
否定的回答%(C+D)	7	9
分からない%(E)	2	3

コメント：保護者は子どもが学校で楽しい思いをしていることを満足している。本年の肯定的回答は91%と特に高い。

(2)保護者へのみ「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」。

回答	令和 5 年	令和 4 年
	1～6 年保護者	1～6 年保護者
肯定的回答%(A+B)	60	61
否定的回答%(C+D)	39	38
分からない%(E)	1	1

コメント：「自主的に」という接頭語が回答のハードルを上げていると思う。保護者が家で見える児童は、クラスの三分の二の児童は家庭で自主的に学習するが、三分の一は自主的には自宅学習はしていないと感じられているということの表れだろう。

(3) 保護者へのみ「本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」。

回答	令和 5 年	令和 4 年
	1～6 年保護者	1～6 年保護者
肯定的回答%(A+B)	45	34
否定的回答%(C+D)	25	35
分からない%(E)	30	31

コメント：肯定的回答が昨年よりも若干増えているので一部連携が行われているのかもしれないがまだ交流が行われているというには遠いと思われる。

(4)保護者へのみ「本校の教育活動に満足している」。

回答	1～6年保護者	
	令和5年	令和4年
肯定的回答%(A+B)	86	81
否定的回答%(C+D)	10	14
分からない%(E)	4	5

コメント：昨年より5%ほど肯定的回答が増えている。しかし10%の保護者が否定的回答をしており、まだ満足でないことは留意すべきである

(5) 保護者へのみ「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」。

回答	令和5年 1～6年保護者	令和4年 1～6年保護者
	肯定的回答%(A+B)	74
否定的回答%(C+D)	20	23
分からない%(E)	6	6

コメント：否定的回答が20%おり、体力の向上はまだまだと思っている人がいる。設問の主語が「学校」ではなく「子ども」なので、肯定的回答が低いのもかもしれない。

(6)地域の方々へのみの設問

設問	A+B %		C+D %	
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年
通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。	87	89	10	9
学校行事の内容は充実している。	97	95	0	3
事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある。	80	81	7	14

コメント：回答した地域の方々の児童や学校に対する評価は温かい。子どもたちも学校も地域の中で大きな存在になっていることが分かる。

「学校全般について」の考察は、第一部7ページ【12】「学校全般」についてをご覧ください。

【15】下北沢小学校独自アンケート（1～4年生及びくるみ学級対象）

下北沢小学校は独自に1年生から4年生全員とくるみ学級児童に下記1～12のアンケートを実施している。児童の成長を計る貴重なデータと思うので添付する

1. 学校生活で自分の良いところを見つけられた。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	66	17	17
2年生	67	17	16
3年生	70	24	6
4年生	81	13	6
1年～4年平均	71	18	11
くるみ学級	100	0	0

コメント：1年生から成長とともに肯定的回答が増加する。

2. 勉強で分かることやできることが増えた。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	81	13	6
2年生	91	8	1
3年生	86	13	1
4年生	96	2	2
1年～4年平均	89	9	2
くるみ学級	100	0	0

コメント：1年生から成長とともに肯定的回答が増加する。

3. 友達から言われたことで、嬉しくなったことがあった。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	73	16	11
2年生	80	14	6
3年生	82	15	3
4年生	91	8	1
1年～4年平均	82	13	5
くるみ学級	100	0	0

コメント：1年生から成長とともに肯定的回答が増加する。

4.自分から進んで体を動かして遊んだり、運動したりした。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	84	9	7
2年生	77	15	8
3年生	79	17	4
4年生	75	20	5
1年～4年平均	79	15	6
くるみ学級	100	0	0

コメント：1年生の肯定的回答が84%と異常に高い。活発な子が多いのか、楽しみである。

5.学校では自分の考えを言うことができた。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	68	21	11
2年生	81	15	4
3年生	68	31	1
4年生	71	25	4
1年～4年平均	72	23	5
くるみ学級	100	0	0

コメント：学年によってばらつきができていて何か原因があるのかもしれない。

6.学校では、友達の話をよく聞くことができた。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	82	7	11
2年生	89	7	4
3年生	82	14	4
4年生	92	4	4
1年～4年平均	86	8	6
くるみ学級	100	0	0

コメント：聞く事の肯定的回答が低学年から高いのは素晴らしい。4年生では92%にもなっている。

7.なかよし班の活動は楽しい

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	88	8	4
2年生	97	3	0
3年生	87	11	2
4年生	94	5	1
1年～4年平均	92	7	1
くるみ学級	100	0	0

コメント：なかよし班活動は「学校の楽しさ」に役立っているようだ。

8.なかよし班でみんなで協力することができた。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	83	8	9
2年生	88	8	4
3年生	86	9	5
4年生	91	8	1
1年～4年平均	87	8	5
くるみ学級	100	0	0

コメント：なかよし班活動は「学校の楽しさ」に役立っているようだ。

9.毎日の学校生活が楽しい。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	91	4	5
2年生	84	12	4
3年生	81	15	4
4年生	94	4	2
1年～4年平均	88	9	3
くるみ学級	100	0	0

コメント：肯定的回答が全学年で 80%を超えるのは素晴らしいことだ。否定的回答がやや多い2年3年は少し気になる。フォローして欲しい。

10.下北沢小学校が好きである。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	91	4	5
2年生	90	7	3
3年生	85	9	6
4年生	95	4	1
1年～4年平均	90	6	4
くるみ学級	100	0	0

コメント：肯定的回答が全学年で 80%を超えるのは素晴らしいことだ。

11.知っている人には挨拶している。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	78	11	11
2年生	86	11	3
3年生	83	15	2
4年生	94	5	1
1年～4年平均	85	11	4
くろみ学級	100	0	0

コメント：児童が年とともに成長しているのが分かる。あいさつは社会性の基本であると思う。

12.朝ご飯を食べてきている。

学年	肯定的回答 (A+B) %	否定的回答(C+D)%	分からない (E%)
1年生	95	3	2
2年生	95	4	1
3年生	99	1	0
4年生	98	2	0
1年～4年平均	97	3	0
くろみ学級	100	0	0

コメント：

以上